

バルサアカデミー葛飾校 保護者説明会

(株) Amazing Sports Lab Japan

 日 時: 2025年 7月 23日(水) 18:30～20:00

 場 所: 葛飾区水元総合スポーツセンター3階 会議室

■ バルサアカデミー葛飾校保護者会

1. 弊社代表ごあいさつ
2. 6月1日以降の動向について
3. 葛飾区議会での主だった質問に対する説明
4. 今後の活動に関する進捗報告
5. 弊社の願い～サッカーを愛するすべての方々へ～
6. 質疑応答(保護者のみなさまからのご意見)

【配布資料】 ①6月1日以降の動き ②文教委員会(7/11)傍聴メモ ③葛飾区議会及び文教委員会の構成
④BA葛飾校の地域貢献実績 ⑤BA葛飾校の保護者様の声 ⑥全葛飾区議へ送付した意見

代表ごあいさつ

株式会社 Amazing Sports Lab Japan
代表取締役 濱田 満

6月1日以降の動向について

6月1日以降の動向について

No	日付	発生事項	内 容
2025年(R7年)			
23	5月 9日(金)	小林宣貴副区長が6月一杯で辞任を表明	「一身上の都合」を理由に辞任を表明
24	5月19日(月)	葛飾区教育委員会とMTG	5月8日のMTGでASLJへ「優先利用を9月までと通告した」前提になっていることが判明
25	5月23日(金)	文教委員会(臨時)	区長・副区長が参加、 優先利用を10月以降は承認しないと発言
27	6月 1日(日)	保護者説明会	水元総合スポーツセンター地域交流ホール
28	6月 5日(木)	葛飾区本会議	第三者委員会設置を求める声多数、KCMとASLJは共犯」と決めつける発言あり
29	6月 6日(金)	葛飾区本会議・区議会議員協議会	総務課が内部調査の中間報告、 第三者委員会の設置決定
30	6月11日(水)	文教委員会	池田文教委員長が委員会冒頭で「百条委員会」設置動議の撤回発言
31	6月12日(木)	総務委員会	バルサ問題全容解明の請願書(不採択)
32	6月18日(水)	葛飾区議全員へ ASLJからの意見書を送付	翌19日、池田文教委員長よりASLJ濱田代表へ電話連絡
33	6月23日(月)	葛飾区本会議・臨時総務委員会	小林副区長の後任人事が「審議すべき環境にない」と継続審議に
34	6月27日(金)	自民党への説明会依頼も謝絶	自民党区議に説明要請するも謝絶
35	7月 2日(水)	葛飾区山崎教育次長とMTG	第三者委員会の調査結果が出るまで「優先利用停止の凍結」を要請
36	7月 4日(金)	葛飾区と区議会議長へ 陳情書を提出	402名分の署名とともに提出
37	7月 5日(土)	筒井たかひさ区議から保護者会渡邊代表に連絡	筒井区議より「内容によっては請願の紹介者を自民党区議が受けることもありうる」
38	7月 8日(火)	総務委員会	第三者委員会の概要を公表:調査結果は2026年3月と説明
39	7月10日(木)	沼田区議がBA葛飾校を視察	荒天のため中止
40	7月11日(金)	文教委員会	「区は事業譲渡を知っていた」というASLJ側の前提が初めて論点になる。全員協議会開催が視野に
41	7月15日(火)	小林ひとし区議が保護者会渡邊代表と面談	事業譲渡を「協定ビジネス」とする自論変わらず
42	7月15日(火)	沼田たか子区議がBA葛飾校を視察	「議会の中での話し合いは一方的だと感じていた。」
42	7月23日(水)	保護者説明会	水元総合スポーツセンター会議室
43	8月 1日(金)	10月利用分の抽選開始	8月16日に10月分の結果判明

葛飾区議会での主だった質問に対するご説明

Q-1

なぜ、(赤字事業の)事業譲渡を受けたのか？

A-1 Q1.なぜ(赤字事業の)事業譲渡を受けたのか？
➤最大理由は子どもたちのため、普通に経営すれば赤字にはならない

最大の理由は葛飾校のこども達の未来のためです。
このままKCMが経営を続ければ、アカデミーは存続できず、こども達からサッカーをする場を奪ってしまう事態だけは避ける必要がありました。
経営的な視点では、スペインのFCバルセロナは弊社の最も重要なビジネスパートナーであり、日本の東京校が閉鎖となれば、弊社の評価に直結し、他の関連事業や今後の事業展開へ悪影響が出ることも、当然考慮しています。
また、当時KCMは赤字でしたが、葛飾校の生徒数は損益分岐点を越える水準であり、「普通」に経営すれば、赤字にはならないと判断しました。

Q-2

グラウンドの優先利用権を売買したのではないか？

A-2 Q2.グラウンドの優先利用権を売買したのではないか？ ➤優先利用権が売買可能という認識自体をもっていない

先だって議員協議会で開示した事業譲渡契約書の第7条は、事業譲渡契約金の不払い条項となっています。

第1項では「現在利用する、東金町運動公園、水元総合スポーツセンターグラウンドの年間契約の確保」とありますが、

第2項で「上記グラウンドを確保できない可能性がある場合は、代替グラウンドの確保を確保するための最大限の努力」としております。

法的解釈では、その「拘束力」が問題となりますが、第2項が努力義務となっているため、第1項に「法的拘束力はない」と解釈されます。

また、代替グラウンドに関しても具体的な指定はしておらず、葛飾区内のグラウンドに限定していないため、優先利用権の売買には該当しません。

そもそも、弊社は優先利用権が売買可能という認識自体持っておりません。

Q-3

なぜ事業譲渡契約書を開示しなかったのか？

A-3 Q3.なぜ事業譲渡契約書を議会に開示しなかったのか？
➤恣意的に一部を切り取られ、ネットに曝されることで曲解される原因になるから

事業譲渡契約書は、企業としての「最高機密文書」であり、公に公表する性質のものではありません。

弊社が最も危惧していたのは、議会に開示した結果、「一部分だけが恣意的に切り取られ、解釈を捻じ曲げられる」可能性があることに尽きます。

事実、前出の事業譲渡契約書の第7条は、第1項と第2項をセットで解釈する必要がありますが、別添資料の様に、区議のブログに「危惧した通りのカタチ」で、第1項のみを取り上げ、「導きたい結論のファクト」として、万人が閲覧可能なネットに掲載されてしまっています。

このような事態が予測されたため、区側にのみ開示させていただきました。
決して、議会軽視の意図や、やましいことがあるわけではありません。

小林ひとし区議のブログから

2025年6月7日(土曜日)

(前略)

キッズチャレンジ未来からアメージングスポーツラボジャパンへの事業譲渡で、**区のグラウンドの『10年間の使用权(優先利用)』が実質的に『5390万円』で売買されていた疑いが極めて濃厚になりました。**

今回、葛飾区がようやく事業譲渡契約書の一部を公開しましたが、そこには『390万円』という巨額な事業譲渡金の総額のみが記載されており、内訳や具体的な対価の説明は記載ないことは区が答弁で認めました。そもそも事業譲渡とは言っても、元々の運営そのものをアメージング社に委託していたため、一体何を譲渡したのかが全く不可解です。譲渡元が持っていた『区のグラウンドの使用权』を売買したとすれば、全ての辻褄が合います。

さらに、**『グラウンドの確保が事業譲渡の絶対条件であり、確保できない場合には支払いは免除される』**の驚くべき条項まであることが判明しました。

譲渡金は10年間の分割払いであり、グラウンドが確保できなくなれば支払いが止まる仕組みです。

これはまさに、公共施設の使用权を金銭化し第三者にまた貸して利益を上げる、いわゆる『協定ビジネス』の仕組みそのものではないでしょうか？ 葛飾区側は、「事業譲渡金の内訳や根拠について調査が必要」と回答するのみで、明確な説明ができません。区民の大切な公共財産がこれほど不透明に取り扱われているのは重大な問題です。(後略)

Q-4

事業譲渡金額の算定根拠はなにか？

A-4 Q4.事業譲渡金額の算定根拠はなにか？
➤**弁護士・税理士にも確認済みであり、極めて妥当な金額**

事業譲渡金額の算定根拠は、同規模のバルサスクールの収支や過去に行っていた弊社の同業態の事業の収支などを勘案して算出しています。
この金額は、弁護士・税理士にも確認を取った上で決定しており、不当に安く買い叩いたわけでもなく、不自然に高い金額でもない、極めて妥当な金額であるというのが、弊社の見解です。

Q-5

**区にわからないように事業譲渡を受けて
儲けようとしていたのではないか**

A-5 Q5. 区にわからないように事業譲渡を受けて儲けようとしていたのではないか
➤利益ベースでは、ほぼ変わりません

事業譲渡を受ける前から、その意図はありませんし、期待もしていません。
実際に、事業譲渡を受けても当社の利益は劇的に増えていません。
売上は譲渡前の業務委託時よりは増えましたが、その分、FCバルセロナへのロヤリティや家賃などの費用も増えますので、利益ベースで見ますと譲渡前の業務委託時とほぼ変わりません。
キャッシュ的には計上されていた売上が権利金に変わっただけで、実態としては「お金が出ただけ」と言っても良いかと思います。
それでも事業譲渡を受けたのは、Q-1でお答えしたとおりです。

Q-6

**優先利用しているバルサが区の施設を独占して、
区民が利用できなくなっている**

A-6 Q6.優先利用しているバルサが区の施設を独占して区民が利用できなくなっている
➤開校当初から、土日や学校の長期休暇中は利用していないなど、利用は限定的

「バルサが独占して区民が利用できない」とご指摘された区議の方がいらっしゃいます。葛飾校が使用させていただいているのは東金町運動場の1ヶ所、かつ開校当初より、一般利用が最も多い土曜日と日曜日、及び学校の長期休暇中は利用しておりません。

弊社の2023年の利用実績は、平日の夕方15時～21時までで、年間170日超となっております。

参考までに南葛SCさんと比較しますと、南葛SCさんは、スクールからトップチームまで全カテゴリーの練習や試合を、東金町、水元、小菅西、奥戸を土曜日と日曜日も含め、年間を通じて優先利用されています。また、にいじゅくに関しても不定期にご利用されておりました。(2023年度)

Q-7

トレーラーハウスの設置に関してはどう関与したのか

A-7 Q7.トレーラーハウスの設置に関してはどう関与したのか
➤当社は関与しておりません

住民訴訟が起こされたトレーラーハウスはBA葛飾校設立当時、葛飾区側が開校条件に対応するために用意したもので、その設置に関して私たちは全く関与しておりません。

文教委員会で再三、大高副委員長が質問されている当該施設のインフラ関係の工事に関しても、弊社から工事を依頼した事実はなく、こちらに関しても関与しておりません。

また、トレーラーハウスとシャワールームは別の場所にあり、BA葛飾校がシャワールームを占有使用していたという事実もございません。

Q-8

バルサは地域貢献を全くしていない。ゼロだ。

A-8 Q8.バルサは地域貢献を全くしていない。ゼロだ。
➤事実と異なります。開校依頼 50校以上に訪問教室などを実施しています

BA葛飾校の地域貢献に関しては、2015年の開校以来、小学校への訪問教室をはじめとして、区内公立小中学校や他のサッカーチームへの指導、サッカー協会主催の大会への指導者の派遣など、多岐に渡る地域貢献活動を、毎年ほぼ無償で続けて参りました。 ※配布資料あり(区にも提出済み)
今年度からは訪問教室を保育園・幼稚園にも拡大し、すでに活動を実施しており、区のお子さまたちに大変ご好評をいただいております。

Q-9

他のチームと同じように一般抽選で運営すればいい

A-9

Q9.他のチームと同じように一般抽選で運営すればいい

➤優先利用は開校条件を葛飾区が受け入れた結果であり、信義則に悖る

当時、葛飾区での開校には後ろ向きだったFCバルセロナから出された開校条件のひとつが、「グラウンドは優先利用でなければ開校しない」というものでした。

葛飾区はその条件に対して「週4日の優先利用を確約するから開校して欲しい」と熱烈的なラブコールを送って、開校に至った経緯があります。その経緯を無視して、「一般抽選で運営しろ」というのは、信義則に悖る行為と言わざるを得ません。

弊社が提供しているバルサメソッドは、世界最高峰の「育成メソッド」です。公認された外国人コーチが直接指導を行い、年代ごとに指導方法やスケジュールは細かく決められているほか、トレーニングを行うグラウンドの仕様も厳格に決まっているため、開催できるグラウンドは限られています。

一般抽選でのグラウンド確保は不確定要素が多く、準備期間も不足するため、抽選だけのグラウンド確保では、現在所属しているお子さま達全員に、これまでと同様の「バルサクオリティ」を提供することは、事実上不可能に近いと考えています。

Q-10

**意見書には「区議会が真相究明を妨害している」
とも取れる部分があるがどういうことか**

A-10 Q10.意見書には区議会が真相究明を妨害しているとも取れる部分があるがどういうことか ➤青木区長から直接受けた説明をそのまま記述しています

私たちは2月19日の文教委員会から、傍聴可能な会議・委員会は全て傍聴しております。意見書にも記載しましたが、「葛飾区は事業譲渡を知らなかった」という区側の主張による前提だけで議論が進んでいることに危機感を抱き、葛飾区へ「議会・委員会の公式な場で説明する場を設けて欲しい」とお願いしましたが、区側からは「議会が決めることであり、要請したが、議会からは断られた」と返答を受けました。

そのため、再度「非公式でも構わないから文教委員会の区議のみなさまに説明したい。」と区長へ直接お願いしましたが、5月8日の葛飾区役所内でのMTG時に、「区議側は非公式でも会いたくない。説明を聞く場はいらない。と言っている。」と青木区長から説明を受け、弊社はその回答に非常に大きな衝撃を受けました。

この区議側の回答とされる文言は、意見書に記載されている通りで間違いないことを、6月23日の総務委員会終了後、MTGに同席していた山崎教育次長に直接確認をしております。

今後の活動に関する進捗報告

今後の活動に関する進捗報告



Amazing Sports Lab Japanとしての対応

- ①東金町運動場での活動継続を模索
- ②抽選での東金町運動場の利用
- ③代替グラウンドの確保

今後の活動に関する進捗報告



① 東金町継続利用の模索

文教委員会(7月11日)で初めて当社側の意見が
取り上げられ、全員協議会開催を要請

① 陳情書の提出

7月
4日

402名(提出時点)多くの方にご署名いただきました
葛飾区長と区議会議長の両方に提出しました

② 区議への働きかけ

随時

複数の保護者の方が働きかけていただきました
区議との面談や葛飾校の視察が現しています

③ 意見書の提出

6月
18日

ASLJより社長名で全葛飾区議38名へ意見書を送付
議会での取り上げや複数の区議から連絡がありました

④ 葛飾区への要請

7月
2日

山崎教育次長と面談を実施、第三者委員会の結論が出るま
で、優先利用停止の凍結を要請しました

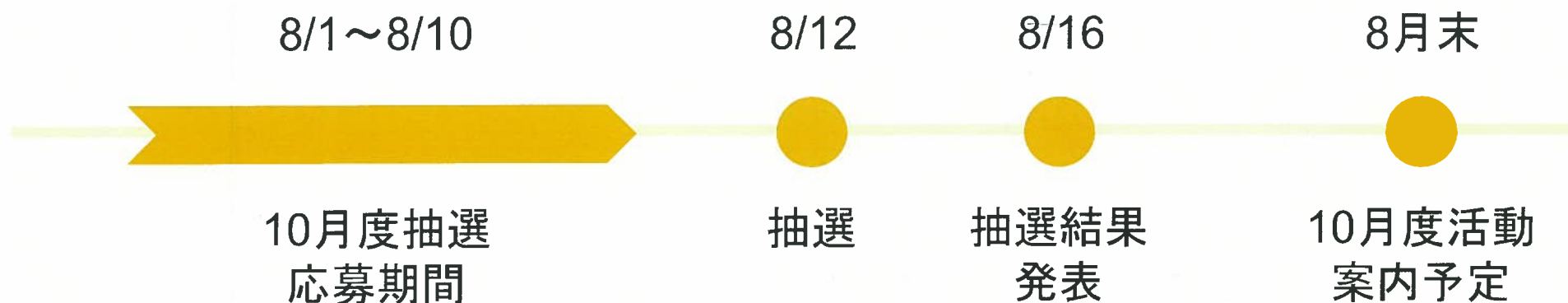
今後の活動に関する進捗報告



②抽選利用の流れ

<抽選の仕組み>

- ・利用月の2ヶ月前の1～10日に抽選を実施
- ・都内在住・在勤・在学者が対象(年齢問わず)
- ・完全な機械抽選のため当選確率は応募数次第



引き続き団体登録にご協力をお願いします

今後の活動に関する進捗報告

③代替グラウンドの確保

- ・東金町運動場から約30分圏内で100件以上の施設に交渉
- ・同等条件(人工芝・スペース)では10月から利用可能な施設は見つからず
- ・条件を緩和して調査中だが代替グラウンドの確保には至らず
- ・引き続き調査は継続するものの10月からの代替施設確保の見通しは低い



弊社の願い

私たちは2011年から、葛飾区民のみなさまと葛飾区の要望を実現させるために尽力して参りました。
全ての物事には必ず始まりと終わりがありますので、BA葛飾校だけが永続するとは考えておりません。
しかし、一方的な前提をベースにした議論によって、区議のみなさまからは「信用できない会社」と非難され、
行政からは明確な理由も説明されず、優先利用の打ち切りだけが、第三者委員会の調査を待たずに決定されました。
そこには、区と区民に協力してきたことに対する評価も、世界的クラブであるCバルセロナへのリスペクトも、
そして最も大切な「こども達への配慮」も、全く感じられなかったことは残念でなりません。
バルサを学びたいために、他県から家族ごと葛飾区に引っ越した方も複数いらっしゃいます。
サッカーを強みとして進学を目指しているお子さまは、活動歴が打ち切られ将来を不安視しています。
せめて、第三者委員会の調査結果が提出され、それを基に議論した結論がでるまでは、
優先利用の停止を凍結することをご検討いただきたく、お願い申し上げます。

株式会社 Amazing Sports Lab Japan 社員一同

質疑応答

閉会のあいさつ

株式会社 Amazing Sports Lab Japan
代表取締役 濱田 満

ご参加いただきましてありがとうございました

Amazing Sports Lab Japan 社員一同

配布資料

6月1日以降の動き

6月1日以降の動き

No	日付	発生事項	内 容
2025年(R7年)			
23	5月 9日(金)	小林宣貴副区長が6月一杯で辞任を表明	「一身上の都合」を理由に辞任を表明
24	5月19日(月)	葛飾区教育委員会とMTG	5月8日のMTGでASLJへ「優先利用を9月までと通告した」前提になっていることが判明
25	5月23日(金)	文教委員会(臨時)	区長・副区長が参加、 優先利用を10月までの発言
27	6月 1日(日)	保護者説明会	水元総合スポーツセンター地域交流ホール
28	6月 5日(木)	葛飾区本会議	第三者委員会設置を求める声多数、KCMとASLJは共犯」と決めつける発言あり
29	6月 6日(金)	葛飾区本会議・区議会議員協議会	総務課が内部調査の中間報告、 第三者委員会の設置決定
30	6月11日(水)	文教委員会	池田文教委員長が委員会冒頭で「百条委員会」設置動議の撤回発言
31	6月12日(木)	総務委員会	バルサ問題全容解明の請願書(不採択)
32	6月18日(水)	葛飾区議全員へ ASLJからの意見書を送付	翌19日、池田文教委員長よりASLJ濱田代表へ電話連絡
33	6月23日(月)	葛飾区本会議・臨時総務委員会	小林副区長の後任人事が「審議すべき環境にない」と継続審議に
34	6月27日(金)	自民党への説明会依頼も謝絶	自民党区議に説明要請するも謝絶
35	7月 2日(水)	葛飾区山崎教育次長とMTG	第三者委員会の調査結果が出るまで「優先利用停止の凍結」を要請
36	7月 4日(金)	葛飾区と区議会議長へ 陳情書を提出	402名分の署名とともに提出
37	7月 5日(土)	筒井たかひさ区議から保護者会渡邊代表に連絡	筒井区議より「内容によっては請願の紹介者を自民党区議が受けることも視野」
38	7月 8日(火)	総務委員会	第三者委員会の概要を公表:調査結果は2026年3月と説明
39	7月10日(木)	沼田区議がBA葛飾校を視察	荒天のため中止
40	7月11日(金)	文教委員会	「区は事業譲渡を知っていた」というASLJ側の前提が初めて論点になる。全員協議会開催が視野に
41	7月15日(火)	小林ひとし区議が保護者会渡邊代表と面談	事業譲渡を「協定ビジネス」とする自論変わらず
42	7月15日(火)	沼田たか子区議がBA葛飾校を視察	「議会の中での話し合いは一方的だと感じていた。」
42	7月23日(水)	保護者説明会	水元総合スポーツセンター会議室
43	8月 1日(金)	10月利用分の抽選開始	8月16日に10月分の結果判明

ASLJ = 株式会社Amazing Sports Lab Japan KCM = 一般財団法人キッズチャレンジ未来

葛飾区議会及び文教委員会の構成

葛飾区議会

議長:伊藤よしのり:自由民主党

葛飾区

区長:青木 克徳 副区長:植竹 貴
(小林宣貴氏は5.31に辞任)

議会運営委員会

◎筒井 たかひさ:自由民主党
○小 山 たつや:公明党
△梅沢 とよかず:自由民主党
△米 山 真 吾:区民連合
△中 村 しんご:共産党
△小 林 ひとし:みらい葛飾
齊 藤 大 介:自由民主党
高 木 信 明:自由民主党
清水 こういち:公明党
細 木 まこと:公明党
かわごえ 誠一:区民連合

(◎委員長 ○副委員長 △理事)

文教委員会

◎池田 ひさよし:自由民主党
○大 高 拓:区民連合
梅沢 とよかず:自由民主党
工 藤 きくじ:自由民主党
牛 山 正:公明党
細 木 まこと:公明党
門 脇 翔 平:区民連合
三小田 准 一:共産党
みずま 雪 絵:無所属

(◎委員長 ○副委員長)

教育委員会／生涯スポーツ課

小 花 高 子:教育長
山 崎 淳:教育次長
張 替 武 雄:生涯スポーツ課長

青木区長>BA設立を主導
植竹副区長>教育委員会担当ではない
山崎次長>2025年4月より現職
張替課長>2025年4月より現職
小林前副区長>2025年5月31日で辞任

筒井議員>議員団幹事長、BA保護者へ連絡
小林議員>火付け役、BA保護者と面談
伊藤議員>BA保護者と接触

大高議員>BA駆逐急先鋒・サッカー協会と連携
公明党>設立時の経緯もあり態度曖昧
共産党>BAに限らず優先利用自体に反対の立場

その他の区議の動き
沼田議員(みらい葛飾)>BA葛飾校視察

BA葛飾校の地域貢献実績

バルサアカデミー葛飾校の地域貢献 (1)

訪問教室



【訪問教室の内容】

- ・サッカー体験授業
- ・異文化授業
バルセロナの文化や
スペイン語など



訪問数(2015年～)

- ・中学校:3校
- ・小学校:46校
- ・保育園:3園
- ・幼稚園:1園

バルサアカデミー葛飾校の地域貢献(1)

訪問教室

- ・半田小学校
- ・末広小学校
- ・高砂小学校
- ・よつぎ小学校
- ・本田小学校
- ・原田小学校
- ・水元小学校
- ・花の木小学校
- ・東水元小学校
- ・幸田小学校
- ・鎌倉小学校
- ・柴又小学校
- ・東柴又小学校
- ・細田小学校
- ・中青戸小学校
- ・中之台小学校
- ・白鳥小学校
- ・南綾瀬小学校
- ・梅田小学校
- ・川端小学校
- ・木根川小学校
- ・飯塚小学校
- ・新宿小学校
- ・住吉小学校
- ・北野小学校
- ・道上小学校
- ・堀切小学校
- ・清和小学校
- ・四ツ木中学校
- ・堀切保育園
- ・会野保育園
- ・渋江保育園
- ・北住吉幼稚園

※今年度は現時点で
10か所実施予定

バルサアカデミー葛飾校の地域貢献 (2)

クリニックの開催



- ・葛飾区民特別クリニック(コロナ期間に開催)
- ・「葛飾スポーツフェスティバル」でのサッカー体験会(2016年から毎年実施)
- ・JFAなでしこひろば(女子選手対象のクリニック／不定期開催)

バルサアカデミー葛飾校の地域貢献 (3)

近隣チームとの交流



「バルサアカデミー葛飾カップ」

(毎年葛飾区で開催)

チーム特別トレーニング

(バルサコーチがチーム単位で無料トレーニング実施)

バルサアカデミー葛飾校の地域貢献 (4)

葛飾区サッカー協会への協力



葛飾区選抜(小学生)指導者協力(葛飾プライマリー)2022年

U15葛飾区選抜の監督・コーチの派遣(墨東5区大会) 2022年・23年・24年

バルサアカデミー葛飾校の取り組み (1)

海外遠征

インド遠征(2回) / ドミニカ遠征(2回) / バルセロナ遠征(10回)



バルサアカデミー葛飾校の取り組み (2)

- ①バルサレジェンドとの交流イベント(東京)
- ②ルイス・ガルシア元選手 特別クリニック(葛飾区東金町)
- ③FCバルセロナU12との合同トレーニング(毎年実施)
- ④バルサフェメニ(女子チーム)との交流会

FCバルセロナとの交流



バルサアカデミー葛飾校の10年間の歩み (1)



2015年4月、147名の選手で開校



2017年以降常時350名以上の選手が在籍



5歳から15歳までの充実した育成環境



葛飾校のプロ第1号は平川陽菜選手



バルサアカデミーワールドカップU12優勝(2019年)



女子クラスの設立 & ワールドカップ準優勝(2024)

バルサアカデミー葛飾校の10年間の歩み (2)



- ・FCバルセロナ副会長の来校
- ・バルサアカデミー部門の責任者の来校
- ・バルサアカデミー地域責任者の来校
- ・バルサファンデーションのスタッフによる研修
- ・メソッド部門の責任者の来校、指導者研修
(常にアップデートされたトレーニングや選手との関わり方を指導者も学びます)

バルサアカデミー葛飾校の10年間の歩み (3)



- ・葛飾区との連携・協力協定を結んでいる秋田県鹿角市との交流
- ・「かつしかランフェスタ」へスタッフが出場協力
- ・サッカー以外の経験も遠征時に実施

BA葛飾校の保護者様の声

- ・議員さんとはまだ話せていないですか？
(葛飾区／小学校2年生)
- ・区議へのアプローチ はまだやらない方がいいですか？
(葛飾区／小学校4年生)
- ・葛飾区の方ももっと見に来てほしい です。子どもたちの一生懸命な姿を見て欲しい
(葛飾区／小学校4年生)
- ・南葛SCは協定がない と前回聞きましたが、どのようにグラウンドの確保 をしているんですか？
(葛飾区／小学校6年生)
- ・10月以降もどうにか継続してほしい 、保護者としてできることはありますか？
なんでも動きます！
(区外／小学校3年生)
- ・サッカー協会がバルサを追い出そうとしてる っていう噂は本当ですか？
もし、本当だったら同じサッカーをしているのに許せないです。
(葛飾区／小学校5年生)

- ・**アカデミーが継続できないという噂** を聞きますが、本当にそんなことになってしまいますか？
(葛飾区・区外の複数の保護者)
- ・日本人コーチたちが辞めてしまうということがないようにしてほしい。
(区外／小学校3年生)
- ・**現在募集を行っていない** ということは、**ジュニアユースの継続** はないってことですか？
ぜひ、継続してほしい。
(葛飾区・区外の6年生の複数の保護者)
- ・**教育長が「苦渋の決断」で優先利用を9月いっぱい打ち切る** と言ったそうですが、
10月以降、子どもたちはどうすればいいと思っているんですか？
何か、援助策とかはないんですか？
(区外／小学校3年生)
- ・**「サッカーの街」が聞いてあきれる**
(葛飾区／小学校4年生)

- ・**子供の未来を奪わないでほしい。**葛飾でやれなくなるレベルの話なんですか？
子供は学校よりもチームよりもここに来たくて通っています。 (葛飾区／小学校2年生)
- ・とある区議さんにお話を伺ったら、**バルサの内容など全く把握してなく** て驚きました。
その区議さんは「アメージングが資料を出さないのは何か隠しているとは思えないし、
信頼できないから、優先利用の継続は難しい」と言っていたが、
そんな「フワッとした理由」でこんなことになっちゃうんですか？ (葛飾区／小学校4年生)
- ・小林副区長が知らなかったって絶対ないですよ。キッズチャレンジ未来の問題も気になりますが、
それよりも**グラウンドの優先利用を何とかしてほしい。**
子供には全く関係のないこと、大人の問題 だと思うので、解決してほしい。 (葛飾区／小学校5年生)
- ・**なぜ、9月いっぱいという期限** なのでしょう。か。
変更するのであれば、せめて学年が変わる3月までとか。
急いでやる理由はなんですか？ (葛飾区／小学校4年生)

- ・本当にジュニアユースまでお世話になりたいと親も子供もこれまで頑張ってきました。
何とか解決してほしい。 (葛飾区／小学校4年生)
- ・これまで葛飾区に対して何も貢献活動はされてきていないですか？
訪問教室とかしていますよね？ (区外／小学校2年生)
- ・中学生の活動はこれからどうなりますか？
中学校に上がっても、バルサアカデミーで活動したいと思っていますが、
もう厳しいでしょうか？ (区外／小学校6年生)
- ・ニュースの記事など見ていますが、何が問題なのか分からない。
保護者ができることは何でもやります。 (葛飾区／小学校4年生)
- ・過去の議会の映像を見ました。今回の件ではなく、他の理由が関わっているようにみえますね。
実際はどうなんですかね？ どこかのチームがグラウンドを使いたいとか？ (区外／小学校4年生)

- ・何が一番の問題なのですか？ 立ち上げた時から問題があったのでしょうか？ （区外／小学校5年生）
- ・逮捕者が出ないのであれば、何が問題なんですかね？ ただ、優先利用を区民に納得させる
為にどんな取り組みをしているんですか？ 訪問教室とかはやってますよね？ （葛飾区／小学校6年生）
- ・少しずつ日数を減らしていくとかはできないんですか？ （区外／中学生）
- ・事業譲渡の契約書を議会で開示することはできないのでしょうか？ （区外／中学生）
- ・子供たちは本当に満足して通っているし、今日（バルサカップの日）も楽しみでグラウンドに
きていました。今後、急にグラウンドが使えなくなることはありますか？ （葛飾区／小学校3年生）
- ・実際どんなことがあったのか、ホームページとかでアップしたりしないですか？ （区外／6年生）

ASLJから葛飾区議 38名全員へ送付した意見

葛飾区議会議員 ●●●● 様

バルサアカデミー葛飾校の問題に関する意見

現在、葛飾区議会で議論されているバルサアカデミー葛飾校の問題に関して、意見を述べさせていただきます。

この問題は、葛飾区議会、議員協議会、文教委員会において年以上にわたり議論され、2025年5月23日の文教委員会において、青木区長が東金町運動場におけるバルサアカデミー葛飾校の優先利用10月以降打ち切る方針を表明されました。

ここまでの経過を振り返りますと、「小林副区長をはじめとする、葛飾区は誰一人として事業譲渡を知らなかった」ことが議論の大前提となっております。

しかし、私たちは「葛飾区は事業譲渡を知らなかった」という前提自体に、深い疑念を抱いております。

事業譲渡に関して、旧運営法人である一般財団法人キッズチャレンジ未来の秋元雅義代表理事は2019年から複数回にわたり、当時の小林宣貴副区長に相談したと証言しております。また、秋元氏は当社に対しても、「譲渡に関してはグラウンド優先使用を含む協定先がキッズチャレンジ未来から変わらなければ基本的に問題ない」という小林副区長の見解を伝えてきております。

バルサアカデミー葛飾校の設立当初から、葛飾区との交渉と調整を一手に担ってきた一般財団法人キッズチャレンジ未来と、設立当時の旗振り役である小林副区長の合意の連絡をもって、当社は事業譲渡の交渉を進め、締結に至りました。当然、「葛飾区が事業譲渡を知らなかった」などということは想像だにしておりませんでした。

このようなプロセスが事実としてある中で、私たちは「葛飾区は事業譲渡を知らなかった」という【一方的な前提】のみによって進行される議論に危機感を持ち、議会・委員会等の公式の場で説明する機会をいただきたいと葛飾区経由で要請いたしましたが、却下されました。次善策として、「非公式の場でも良いので、議員の皆様にご説明させていただきたい」と青木区長を通じて打診させていただきましたが、議員の皆様からは「非公式でも会いたくない。説明を聞く場はいらない」という回答だったと説明を受けています。

また、「バルサは全く地域貢献活動をしていない」「事業譲渡を隠そうとしてた」など、事実誤認や一方的な決めつけによる発言が議会内で繰り返されてきたことは、残念でなりません。

この問題は、「葛飾区は事業譲渡を知っていたのか、否か」を明らかにし、そこを出発点として議論を始めるべきであり、現状の「葛飾区は事業譲渡を知らなかった」という【一方的な前提】を元にした議論から判断された「優先利用を打ち切る決定」は、当事者だけでなく第三者から見ても説得力をもたないのではないのでしょうか。

今回の決定によって、活動の場を奪われるのは、区民でもある多くの子どもたちです。「サッカーの街」を標榜し、この事業を始めた葛飾区が、サッカーをする子どもたちの権利を「大人の事情」で奪うのは、あまりにも不条理だと感じます。

つきましては、「葛飾区は事業譲渡を知っていたのか否か」について、客観的かつ中立的な立場から事実を確認していただきたく、第三者機関による調査をお願いいたします。また、その調査結果に基づいた議論による結論が出るまでは、青木区長が出された優先利用の打ち切りについては一時的に凍結し、拙速な結論に至ることのないよう、ご配慮いただきたく存じます。

2025年6月18日
株式会社mazing Sports Lab Japan

代表取締役 瀧田 満

手元資料

KCM秋元代表理事ヒアリングメモ

取材者: BA葛飾校保護者会 渡邊光代表

取材日時: 2025年7月5日(土)

【出来事】

・2022年後半から2023年上旬にかけて、小林宣貴氏(23年1月からは副区長)を複数回訪問して相談した。

【小林宣貴副区長との相談内容】

秋元氏はキッズチャレンジ未来(KCM)の経営が苦しいため、合併や事業譲渡を含めた様々な打開策を模索していた。

秋元氏が用意したプランに対して、小林前副区長に意見をもらう形で相談を重ね、最終的にスクール生に一番迷惑がかからず、グラウンド使用にも支障がない、「アメージングスポーツラボジャパン(ASLJ)への事業譲渡」が良いということになった。

具体的な段取りとしては、まずは生涯スポーツ課と保護者には「共同運営」に移行すると説明し、実際の業務に支障がないことを確認してから、2023年4月以降に事業譲渡に関して生涯スポーツ課へ説明しに行くつもりだった。

こうした手順で進めるつもりであることは小林前副区長に説明していた。

秋元さんとしては、小林前副区長から生涯スポーツ課にそういう話になっていて了承済みである旨、話がいくことを想定していた。

【生涯スポーツ課への「共同運営」についての説明】

2023年3月に保護者へ送付予定の「2023年4月からのバルサアカデミー葛飾校運営体制について」というKCMとASLJ共同名義の書類を持って生涯スポーツ課の課長(当時は柿澤幹夫氏)に運営体制を変更することを説明しに行った。

以 上